

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和
新潟県山岳協会
新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野亘寛
TEL 0258-52-3998

安全登山講習会研修会

遭難対策委員会 井 春 文

10月24日、三条市グリーンスポーツセンターに於いて、安全登山講習会研修会を開催しました。参加人数26名、講師1名 スタッフ4名。

今回の内容は、県内の山岳における遭難事故事例の解説と地形図の基礎知識、読み方、実際の地形との照合。現在の遭難事故の大きな原因のひとつである道迷いに照準を当てこの内容とした。

まず新潟県警地域課の玉木大二郎様から県内の山岳別遭難発生状況と遭難事故事例の解説を講義していただいた。

10年間山岳別遭難件数では、五頭山、御神楽岳、粟ヶ岳、巻機山、駒ヶ岳、八海山、平ヶ岳、平標山、妙高山、火打山、朝日岳等が多くなっており中でも群を抜いているのは巻機山、妙高山の36件となっている。形態としては転倒、滑落、道迷いが多くなっており、荒沢岳では前嵐で転落をした遭難者をガイドが登山口まで背

負って搬送した例もある。

続いて遭難対策委員の新保雅稔さんから地形図についての講習。最初に地図の種類では、市販の登山地図（以下登



山地図）と国土地理院の25000分の1の地形図（以下地形図）の違いについて。登山地図は登山道に赤線を引いて更に所要時間が入っている。また50000分の1の地形図がベースで地形に対する情報が読み取りにくい。また赤線や時間、危険箇所や花や展望等の記載が更に地形

を読み取り難しくしている。コースタイムの参考にはなるが個人の力量によって違いを認識しないと行けない。反面、防水紙を使っているのが濡れに強く携行には便利な面もある。地形図は情報量が多く読図に慣れば地形をイメージし易い。濡れに弱いので防水対策が必要である。

次に基礎知識である等高線の解説、谷、尾根の見分け方。谷線、尾根線の引き方や読みやすくするための工夫等、分かりやすい解説であった。

午後は5班に別れスポーツセンターに近い高峰山の登山道を、地形図と実際の地形とを照合しながら歩いた。途中に7箇所のポイントを設置しその場所を地形図に記入するというオリエンテーリング感覚の実習であり、コースは何かあるうち最も歩かれていないであろうコース。更には途中に踏み跡が分かりにくい箇所や、地形図に載っていない道もあったが、全班無事に正規ルートを完歩した。またポイントの記入も完璧だった。今回はコンパスについては詳しく出来なかったが、実習の中では実際に使用しながら

確認していたので良かった。
道迷いは帰れなくなるばかりか、それによって体力を消耗し、疲労から低体温症、焦りによる転落、滑落にもつながると思います。山を歩くにはまず地形を知り、それによって的確な日程、時間の調整をする。しっかりとしたりーダーに連れて行ってもらった場合でも、ルート上の地形がある程度分かっていたら精神的にもゆとりが出来て、山歩きがもっと楽しくなるのではないだろうか。

参加していただいた方々、講師の玉木さん、新保さん、ありがとうございました。次の講習会研修会の折もよろしくお願ひします。



平成22年度親睦登山

『錦秋の信越トレイル』に参加して

大野 新一郎 (新潟楽山会)

平成22年10月30日と31日に、恒例となった新潟県山岳協会の平成22年度親睦登山が、錦秋の「信越トレイル」と銘打って、参加人数51名で実施された。

30日は宿泊場所の上越市清里区「山荘京が岳」で、信越トレイル作りの活動に携われた惣塚泰次氏から「信越トレイルよもやま」と題してお話をお聞きした。登山も色々な楽しみ方があるので、新潟県山岳協会主催の親睦登山と、春と秋の自然保護研修会の講話は、とても有意義なもので毎回、楽しみにしている一人である。「里山に息づく生物多様性に学ぼう、水生植物保全から考える棚田の重要性」と題し全国自然保護総会が高柳じよんのび村で行われ、また名古屋でCOP10生物多様性国際会議が行われたことは、

岳人として興味あるところだ。地球の温暖化に始まり、動植物の絶滅や森林破壊、漁



鍋倉山にて

業資源の枯渇、外来種の脅威等などの環境破壊、そして身近では食料の輸入と自給率、減反、外材輸入、圃場整備、土砂災害と中山間地過疎化、また深刻なナラ枯れや熊の出没の現状など、諸問題が目白押し。私達はこれらを、どの様に向き合っていくべきかわれる所だ。

●「信越トレイルよもやま」

信越トレイルは、里山を中心とした長野と新潟の県境関

田山脈の尾根沿いを斑尾山から天水山まで縦走する総延長80kmの日本でも類を見ないロングトレイル(長距離自然道)である。冬期は積雪が5メートルを越える豪雪地帯、ブナ林を中心とする豊かな自然や文化、歴史が色濃く残る里山である。これらの自然環境調査や保全活動、トレイル整備はNPO法人信越トレイルクラブが中心となり、地元住民やボランティアの力で行われているとの事。16もの峠があり歴史、文化、生活の交流が信州と越後で行われてきた。積雪は5メートルを越え全てが雪の下となる、長野県栄村で昭和2年2月12日に7m85cm、新潟県上越市板倉区で昭和2年2月13日に8m18cmが記録された世界有数の豪雪地帯との事。峠の名前が越後側の集落の名前が付いていることや、信州側の集落では越後から嫁をもらうことを誇りとし働き者の越後女性が大勢嫁入りをしたこと。越後側から塩、米、酒、紙すき用のコウゾウなどの物資が運ばれ、そして善光寺参りや野沢温泉への湯治の道として使われたこと。また方言が越後側と信州

側がおなじと言う事もいかに交流が盛んに行われていたことを意味するもので興味深い。

そして戦国時代には上杉謙信の山城や重要な軍事道路として川中島合戦に使われ、富倉峠が主であったが多くの武士や物資を運ぶには他の幾つもの峠を利用し飯山に集結したと言われている。このように多くの峠がある中で「梨平峠」だけが残っているとと言う話は特に興味深い。現在は滝の脇まで村道が整備されているが、その先は巾2メートル前後の人馬道が続き、歩くと当時の様子が感じられるとの事。

「梨平峠を一度尋ねてみてはどうでしょうか」と惣塚泰次講師は推薦した。

以下の「信越トレイルガイドライン」及び「信越トレイルトレッキングルール」の説明があった。言うまでもなく私達、岳人として当然守って行かなければならない。

●「信越トレイルガイドライン」

関田山脈の貴重な資源が未来に永続できるよう、信越トレイルクラブでは以下のガイド

ドラインを定め、実践します。
1. 生物多様性の保全を基本にします。

2. 自然、文化を学び、伝えていきます。

3. 人と人との交流を通して地域の活性化に貢献します。

●「信越トレイルトレッキングルール」

1. トレイル内を歩きます。

2. 動植物を大切にします。

3. ゴミはすべて持ち帰りま

す。

4. トイレは施設を利用しま

す。

5. 表示された決まりを守り

ます。

6. 他人に配慮します。

7. 事前に情報を収集し計画

を立てます。

● 錦秋の「信越トレイル」

31日は親睦登山。関田峠か

ら黒倉山を通り鍋倉山に登る

信越トレイル認定コースを歩

き、帰路は一旦久々野峠まで

戻り、右折して巨木の谷を経



上がり、楽しい出発となった。関田山脈稜線からは妙高、上越市街、米山、遠くに佐渡まで見える眺望の良さ。そして信州側は飯山、野沢温泉、志賀高原、鳥甲山、苗場山、越後三山も望むことが出来る

大展望の良さである。この周辺に多くの山城があるのも展望の良さから頷ける。紅葉は

ちようど見ごろ、先日降った雪が所々に見られ、冬の訪れ

を感じさせる。「今年の紅葉は例年と比べ、今一」と昨日

の惣塚泰次講師は話していた

が、どうしてなかなか見事な

紅葉であった。この関田峠も

あの上杉謙信が通ったかも知

れないと思うと、また一味違っ

た山登りをする事が出来まし

平成22年度 新潟県自然

保護係との懇談会報告

自然保護委員会副委員長

伊藤 直 (工友会)

日時：平成22年10月13日

10:00~12:00

会場：県庁職員会館2F

会議室

出席者：

新潟県民生活環境部環境企

画課自然保護係 4名

飯塚係長/市橋さん

立川さん/佐久間さん

新潟県山岳協会自然保護委員

会 7名

北村参与/本間委員長

伊藤副委員長/鈴木委員

高橋委員

藤井三郎(下越山岳会)

浅野会報編集委員長

懇談内容

1. 本間委員長挨拶

日山協自然保護総会への

飯塚係長出席に対する謝辞

があった。

2. 飯塚係長挨拶と県側出席

者の各担当業務紹介

3. 県側からの22年度施設整

日 備事業実施状況及び23年度
計画の説明

飯塚係長

自然公園内における県の施

設整備事業の紹介

・環境省直轄事業(国立公園)

事業費 H22・91+19

7百万(前年度繰越)

・環境省の直轄事業だが、

県が施工委任を受けて実施。

事業費潤沢。

・自然環境整備交付金事業

(国定公園)

事業費 H22・約53百万

県が事業主体となって実

施。国費45%、県費55%。

事業対象

① 自然保護や利用者の安

全確保上の必要及び広域

性高い施設

「道路(歩道)」、「避

難小屋」優先的に整備

② 既存施設で老朽化し利

用者の安全確保上再整備

が早急に必要な個所



利用者集中で洗掘された登山道や破壊された植生等早急な悪化防止、保全、復元が必要な個所・自然公園等利用施設修繕事業（県立公園）
 事業費
 H21…約860万
 H22…約960万
 事業費少ない。
 県整備の木道・避難小屋等の修繕要する場合に実施。各担当より現行事業実施状況の説明

(1) 国立公園

① 鷹巣野営場（園地、野営場）整備工事実施
 本年度で大部分終了
 H23に残工事実施し終了
 ② 苗場山破川ルート（和

田小屋ノ山頂 全長6・13km H20ノ25実施中）
 ③ 笹ヶ峰・高谷池・火打山ルート（黒沢池含む）（全長12・98km H20ノ26実施中）
 H22は2工区を整備、H23は天狗ノ庭ノ山頂間を予定
 ④ 雨師山もやりたい
 ④ 蓮華温泉朝日岳白高地沢橋（橋梁整備工事 H21ノH23）
 (2) 国定公園
 ① 越後三山（明神峠ノ駒ヶ岳山頂歩道 6・6km H20ノH25実施中）
 H22は明神峠ノ小倉山付近を整備。
 ② 角田山線歩道（5コース整備 9・4km H21ノH25実施中）
 H22は山頂部の整備、緑化を実施。
 ③ 弥彦公園園地整備補助
 (3) 県立公園
 H22 実施事業
 ① 三面遊難小屋修繕
 ② 守門岳歩道修繕
 ③ 巻機山歩道整備（偽巻機山ノ小屋間の木道階段化とその先頂上ノ向かう部分）

④ 寒江山線橋梁修繕
 ⑤ 頼母木、門内、御西各小屋修繕 他
 4. 「ふるさとの再生自然共生協働事業」の事業への応募依頼
 飯塚係長より是非この事業に対し、県山協加盟の会から応募して欲しいとの要望があった。応募が無いと折角の予算が次年度以降減額ないし零とされる恐れ有り、復活も難しくなるとのこと。
 内容は、地域の自然保護団体が行う景観保全、動植物保護再生、登山道整備等の活動に対し材料の支給や技術者の派遣を行う。事業後に残置物があることが要件。
 支援費上限1団体年間20万円、事業期間2年間。現在4事業の支援のみとなっている。支援条件等は県に問い合わせる。

5. 昨年同様「緊急雇用対策事業」紹介

① 自然公園歩道等緊急点検対策事業を実施 臨時職員を雇用 上中下越各3人計9人
 ② 「新潟県の草花」雪割草等希少植物保全対策事業、セイダカアワダチン

ウ駆除作業で20人雇用
 6. 県には出先が無く、実際に県内各地の自然環境の状況を詳しく把握できる態勢がない。この為県は自然環境保護員制度を設け、35名の方に委嘱している。研修会も自然保護係主催で毎年実施している。今年度は妙高で実施。県山協の方で希望があれば参加可能、とのことであった。
 7. 質疑応答
 山協・飯豊北股岳オーイン尾根、大日岳オンベマツ尾根が数化している、何とか刈り払いをして貰えないか。
 県・県はそれらの登山道の管理者になっておらず手が出せない。
 管理者になれば責任が生じ、事故があれば賠償云々となり、登山道に掛けている保険料負担も増加するのでおいそれと管理者にはなれない。

偽巻機から小屋への下り木道の付け替えなどの整備をやっている。指摘の部分の状態も承知しており登山者も多いので何とかしたいとは思っているが予算が無い。その他、
 ・粟ヶ岳の登山道荒廃の問題など話題となったが、県では実態は承知しているものの現状は県費削減等で財源が無く手が出せない。
 ・ナラ枯れが高い山まで広がっていること、セイダカアワダチンウがますます県内では繁殖してきている問題で、県としては一部除去などの対応はしているが焼け石に水、根本的に打つ手が無い。
 ・山小屋利用料金は県では管理しておらず、市町村に任している。トイレ利用料金については、県は徴収を指導していない。
 など情報交換、質疑応答等を行った。
 最後に、県の飯塚係長からは「情報を下さい」との要請、県山協の本間委員長からは「人的な面で可能なところは協力していきたい」との表明があり、今年度の懇談会を終了した。

新潟県立新発田高等学校登山部が『岳人』で紹介される

山岳雑誌『岳人』の連載コーナー「高校山岳部の仲間たち」に「四季折々の山の味わいを楽しむスロー登山」を標榜する新潟県立新発田高等学校登山部の活動が掲載され、顧問の渡邊仁先生からお知らせをいただいた。

昭和2年に徒歩登山部として活動を始め、過去5回の国体出場経験を有し、平成9年には少年の部で優勝も果たすなど歴史と実績を持つ登山部は、現在、顧問の渡邊先生の下、3年生2人、2年生1人、1年生1人の合計4人の部員が地元の山を中心に四季折々に様々な山の味わいを楽しみ、また、高校総体へもチャレンジしている。学校の付近に素晴らしい山々が存在し、多感な高校生のときに自分の知力、体力、判断力を駆使して高みに挑み、頂を極める充実感、達成感を体験できることは、社会人となって山を始めた自分には大変羨ましく思えた。

なお、同校登山部のOBは「かいらぎ山岳会」を組織して活動を行っており、内容も青春時代の山の思い出から現在の取り組みまで、充実した内容となっている。

<http://www.kairagi.jp>

県山岳協会事務局 諏訪恵一



新潟県立新発田高校登山部 四季折々の山を味わい、目指すはスロー登山

◆顧問から一言
山も人も一期一会

生涯に一度しか登らない山も、何度も登った山も、四季折々に見せてくれる表情はすべて異なるという意味で一期一会です。そこで出会った人々とも一期一会です。部活動では、天気図、概念図、登山用語、植生、ザイルワークなど様々な知識と技術を学ぶわけですが、それらを身に付けて山と向き合います。地区大会では同じ地域の高校生と登り、県大会では強豪校との力の差を痛感させられます。でも夜には「麓鎮」（各学校の夕食で余ったものを持ち寄り、すべて混ぜて煮込んだものを預さず食べるという恐ろしい！交流会）が開催され、普通の高校生の表情に戻ります。新潟県高等学校体育連盟登山専門部の専門委員として、毎年発行される『登山部報』という冊子の編集に携わりましたが、そこに寄せられる生徒たちの山への思いを読むと、3年間の部活動を通じて成長する様子が感じられ嬉しく思います。

また、本校の卒業生で組織する「かいらぎ山岳会」(<http://www.kairagi.jp/>)は、青春時代を山で過ごした思い出を語り、今でも飯豊連峰縦走や湯の平小室温泉の整備などの活動をしています。

山を通して得たものは生涯の宝となることは間違いありません。これから自分にあったスタイルで山を愛して欲しいと思います。

私たちの学校○南北に長い新潟県の北部・新発田市にあり、創立は明治30年。今年114年を迎えた県立高校（普通科21クラス・理数科3クラス：生徒総数960人）。昨年の新校舎完成に続き、今年は新グラウンドも完成。校舎からは二王子岳（1420m）や北岳岳（2025m）を望むことができる。文武両道に励む進学校で、今年は陸上競技部、テニス部、柔道部が全国大会に、またラグビー部、柔道部、空手部、弓道部、水泳部が北信越大会に出場している。



俳優の永島敏行さんと飯豊山にて

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー



パーマーク
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

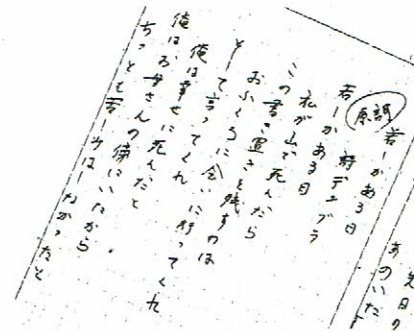
登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス

ICI 石井スポーツ
新潟店

新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134代
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

新山協ニュースの原稿募集のお願い!



広く原稿を募集いたします。行事・記念誌・会報・などの紹介。会の地域研究・紀行文、山行記録、「チョットそこまでのな低山の楽しい文」や詩、地域のアプローチや登山道・動植物・環境問題に関する感想や情報などお寄せ下さい。原稿はメール（横文、原稿用紙1,500文字程度）郵送で短文でも結構です。イラスト、写真つき歓迎します。

〒940-0221 長岡市金町2-2-17 浅野巨寛 方

☎ (0258) 52-3998

Mail: a-unkai@m8.dion.ne.jp

編集こうき

▲「暑」例年年末になるとその年の世相を思い清水寺貫主が大書する今年の一文字だ。夏の平均気温が観測史上最高を記録したことなどから選んだ一文字だろう。酷暑は農作物、漁業、自然環境などに大きな被害などの問題を提起した。喉もと過ぎれば「暑」さを忘れ。秋・冬に向かい市井の末端に住む庶民には「寒」が忍び寄ってきている。

相変わらずの不景気の風と尖閣をふくむ国境問題や人の質の低下を表す犯罪と社会問題。それに対処出来ない政府に不安とイライラがいつそ心の中心を「寒」風がふきぬける。

日本の国名の別称であり歌枕、枕詞といつていい「敷島」「扶桑」「大和」耳ざわり良い美しい言葉だ。せめて新年に向かつては地球の存亡をかけてイスカソナルに挑戦する劇画や映画の「ヤマト」のように「熱」き心を持って発進したいものだ。

▲最近、近海のものではなかなか見当たらない大振りのサ

バを見つけた。脂ののったサバは煮ても焼いても美味しいものだが、今日は最近話題の佐渡の「ブリカツ井」の向こうをはって「サバカツ井」をつくってみた。

サバは三枚に下ろし骨を取り除く、半身は3等分位に切り分けて酒をふりかけて置く。少しおいて牛乳もふりかけ味をなじませると魚の臭みを風味に変える。小鍋のダシ汁に酒、砂糖、醤油で少し濃い目のタレを作って、仕上げにソースで味を調える。切り身は小麦粉・溶きタマゴ・パン粉のコロモでからりと揚げる。コロモが厚いと身離れするしシツコクなる。

井のご飯にタレを少しかけておき、揚げ物は半分だけタレに漬けご飯に乗せてサクッとした食感を残そう。青海苔かパセリをちらして出来上がり。

井にしない場合は皿に盛ってタルタルソースか、マヨネーズ・ケチャップを併せてフライにかければ出来上がり。サケの切り身も同様にして楽しめる。特に「サバカツ井」は思いもよらぬ美味さだ。

会報・編集 浅野



JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

<http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/>

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h_mitani388@jtb.jp

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第553号・IATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員

本社 新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

☐長岡営業所

〒940-0004 長岡市幸町1丁目3番5号

☎ (0258)33-7123

☐新潟営業所

〒950-0910 新潟市山3丁目2番11号

☎ (025)246-2266